

安芸太田に来てみんなさい！



もりみん

安芸太田町公式マスコットキャラクターです。「ヤマネ」という動物がモチーフです。

コンセプト

私たち「安芸太田に来てみんなさい！！」は、2021年度の地域つながるスタートアッププロジェクト、2022年度から2024年度地域つながるプロジェクトを通して、安芸太田町を盛り上げたいという地域の方々と、安芸太田町の魅力発信をテーマに活動した。

安芸太田町とは？

広島県の北西部に位置する山県郡の一部を構成する町。地域の大部分が森林で恐羅漢や三段峡をはじめ豊かな自然環境に恵まれた地域である。



活動目的

安芸太田を好きになってもらう

活動目標

安芸太田町を知ってもらう
修大生を中心に交流人口を増やす

手段

修大生向けのPRや
大学内でイベント実施など

なぜ、ターゲットを修大生に絞るのか…

多くの方々に安芸太田町のことを知ってもらうために、身近な修大生にターゲットを絞った。広島修道大学から安芸太田町までは車で40分程度であるが、学生の間では知名度が低い。運転免許証を取得した際に山口へ観光に行くという話をよく聞くので、安芸太田町も観光先の1つとなるように広めていきたい。そうすることで、運転免許証を取得したら安芸太田町にドライブへ行くという流れをつくりたいと考えた。

6月

熟議

地域商社あきおた様とみらい株式会社様と熟議を行い、SUP体験や安芸太田町説明会など、今年度の取り組みについて共有・整理した。

START

安芸太田町説明会

学内で安芸太田町説明会を開催した。学生に安芸太田町公式キャラクター「もりみん」と触れ合ってもらえる機会を設けることで、多くの学生に安芸太田町の存在を周知することができた。ワークショップでは、「なぜ安芸太田町では若者の観光客が少ないのか」をテーマに意見交換を行った。その結果、「若者向けの観光資源が少ない」「そもそも安芸太田町を知る機会が少ない」など、有意義な意見を得ることができた。また、収集したデータを分析し、今後の活動方針に活かした。

7月

SUPイベント参加

活動の軸であるSUPへの理解を深めるとともに、安芸太田町の魅力を探ることを目的として参加した。地域の方が多く参加するイベントであったため、それまで面識のなかった現地企業の方々と交流する機会を得ることができた。また、温井ダムの放流の見学や観光客の多さを通じて、安芸太田町が有する豊かな自然風景の魅力を実感することができた。

8月

SUP宣伝

龍姫湖で実施されるSUPの宣伝を目的として、チラシを作成した。ターゲットを広島修道大学の学生に絞り、学内の複数箇所に掲示を行った。さらに、学生の目に留まりやすい工夫として三角柱型の掲示物を作成し、食堂にも設置させていただいた。

1月

安芸太田町ドライブマップ作成

もりみん・しゅうまるコラボイベントでのアンケート結果を基に、「安芸太田町の観光地の認知度向上」、「安芸太田町に行くきっかけづくり」を目的に安芸太田町マップの作成を行った。作成を行うにあたり、実際に安芸太田町で現地調査を実施した。

広島修道大学の学生に安芸太田町を知ってもらい興味・関心をもってもらおう

12月

もりみん・しゅうまるコラボイベント

本イベントは、安芸太田町の魅力を学生に知ってもらうことを目的として実施した。写真撮影会を行うことで学生が立ち寄りやすい場をつくり、アンケートへの協力を得ながら、活動紹介やInstagramのQRコード入りポケットティッシュを配布し、安芸太田町および本プロジェクトの認知度向上を図った。形式を工夫した結果、アンケートは目標の50件を上回る60件を回収することができた。一方で、告知がInstagramに限られていた点は課題であり、今後はポスター掲示など広報手段を増やす必要がある。回収したアンケート結果は分析を行い、次の活動に活かすことができた。

10月

龍姫湖まつり

龍姫湖まつりに参加した。当日は、地元飲食店「きんちんたまがわ」様のおにぎりセットの販売を行ったほか、龍姫湖の認知度に関するアンケート調査や、活動の広報を目的としたチラシ入りポケットティッシュの配布を実施した。

成果

- ・学内説明会やポスター掲示を通じて、広島修道大学の学生に対し、安芸太田町の存在や魅力を伝える機会を創出した。
- ・三段峡や恐羅漢山といった観光資源に限らず、町の取り組みや人の存在を含めた安芸太田町の理解を促進した。
- ・学生にとって安芸太田町が「知らない地域」から「関心を持つ地域」へと変化するきっかけを作ることができた。
- ・単発的な活動にとどまらず、安芸太田町との継続的な関係構築に向けた基盤づくりを行った。
- ・Instagramの広報を通して1年間で44人フォロワーが増加した。

課題

- ・数値としてもっと具体的な目標を立てる。
- ・告知がInstagramに限られた点は課題であり、今後はポスター掲示など広報手段を増やす必要がある。
- ・報告することだけでなく、相談することも心掛ける必要がある。